

# はくさんさん

## 生まれ変わる

第 125 号 令和 5 春 最終号

伊豆市 法住寺 発行

先日、次のクイズというか諺(ことわざ)が目に入った。

袖振り合うも ○○の縁

この○○に入る言葉は何かというもの。

祈願会や十二日講などでは「山寺の縁」など良いなあ、そんなことを思いながらも『多少の縁』。見知らぬ人と通りすがりに袖が触れ合った、これも多少の縁というものか。ところが正解は『多生の縁』とあった。「多生」何回も生まれ生まれ変わって、今、袖が触れ合った、その見知らぬ人とは深いご縁で繋がっていて、前世では親友だった

### 「寿命の祈り 敬意と感謝」

大自然 ありがとうございます。  
社会の皆さん ありがとうございます。  
ご先祖さま、家族の皆さん

合掌

合掌

り、兄弟姉妹だったりするかも知れない。だから振り合ったご縁を大切にしようと思うのだ。



この諺で何かストンと心の奥底に納まったものがある、「人は生まれ変わる」。亡くなっても生まれ変わる。そう思ったら、死を自然に受け入れられる思いとなり、何かが楽になるというか愉快的気持ちになった。法華経ではお釈迦さまに悪事をなした提婆達多が前世ではお釈迦さまの師であったという因縁が語られたり、法華経のはじめは日月燈明如来さまが何回も生まれ変わり2万回目に生まれ変わって、初めて説き始めたりする。そうしたお経は拝読するが何か納まっていなかった。科学や合理で理解しようとしても無理なのだ。それがこの諺で何故かストンと納まった。納まるよう

な歳頃になった、歳をとったと云うことかも知れない。この諺、何時頃から言い伝えられているにしても、科学では言うことが難しい



な歳頃になった、歳をとったと云うことかも知れない。この諺、何時頃から言い伝えられているにしても、科学では言うことが難しい

平成13年春 花まつり 十二日講  
の皆さんと院首さんこの秋遷化



この世のことわりをサラリと云つてのける、たいしたものだ。



お寺も生まれ変わる、この度住職を退任させて頂くことになった。私が住職にな

ったのは平成5年の45歳の時。まだ中学校に勤めていて、朝勤してお寺を出るのは7時、帰りは夜の8時、そして山務。何時も頭がジンジンしているようだった。加えて先代の介護があり、また本堂建立が動き始めていた。先代は足腰は弱っていたが気力はしっかりしていたので、長い介護になると学校を退職。するとその年平成13年の9月に遷化された。私が退職し気持ちにゆとりが出てきて、そうした空気が山内に流れ安心されたのだと思う。その後も本堂建設に向けて連日のように会議や作業が続

き、洋明の結婚式でもお世話になった。また宗務所を置くことになり、仮本堂の狭い中で所員を中心に良くお勤め頂いた。地鎮式、上棟式、そして平成16年落慶式。あれやれやれ。そんな思いの中、落慶式で真間山石野貫首さんが「伽藍がランドウにならないように」との祝辞、堂内大笑い。

その後、力が抜けそうなタイミングで「ねえ、御前さん、ランドウにしないようにしましょうじゃ」と護持会役員さん、一緒に汗も流し下さった。永代供養塔は、伊豆法難750年を期して設置した。住職になった当初からこうした供養塔が欲しいと準備はしていたが、様々な有難いご縁を頂き善い供養塔となった。こうして30年間、まことに多くの方々のお力を頂いてきたことを深く思う。このご恩は次の生、また次の生と保ち歩んでいきたい、袖振り合うまで。



新住職は私を支え続け共に励んできた。

万灯講、寺子屋、星祭、七面山登詣、各種相談等々良くやっております、宗務所等のことも励んでいる。また私が住職になったのと

同じ歳になり良い頃合いだ。檀信徒の皆さんには新住職を更に育てて頂きたく宜しくお願い申し上げます。

尚この寺報は本号をもって最終号とし区切りをつけることと致します。125号31年間、ご笑読 ご縁を頂きまして 誠にあり

がとうございました。

## お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

かれこれ三十余年前のある日、私は旧本堂の須弥壇の雑巾掛けをしていた。その時、突然にほんとうに突然、私の中に今までにない思いが湧いてきた、「私 お祖師さまに呼ばれたんだ」と。たまたま教員をしていた、

て、同じ教員の住職と縁があつてお寺に入った位の意識でしたが。その日から「お寺の仕事は日蓮聖人のお手伝い」と思え、たまらなく嬉しくなったことを昨日の事に思い出します。



お寺には雨の中、寒い風の中、夜遅くでなければ来られない方も多くあります。誰もが皆、悩み、時に苦しくて心の拠り所、心



の安心を求めているという現実もあります。私が心掛けてきたことは、今日という日にお寺をたずねてくれた方に出来るだけ、さみしい想いをさせず、「今日

は お寺に来てよかったな」と思つて帰って頂ける様に努力することでした。そう心掛けてみると自然にうちとけて世間話も楽しく、また多くの方の名前も自然に覚えることができた。あるご婦人に「元気だった？」と一声かけた時、その方が泣き出してしまった。「ずっと誰からもそんな言葉かけてもらってなかった」と。その方とは街で出合つてもお互いに手を取り合う仲となり、今でも励ましながら



お寺のご縁で様々な方々に巡り合えた。今は亡き方々にも。与えられた中で一生懸命に「生きる」ということを教えてもらった。



家族に囲まれて笑って亡くなっていったお婆さんは「死ぬことは生きることの延長だよ」と見せてくれた。

十人十色というが十人の価値観、感性が違って当たり前ということも知ったが、違っても和をつくれることも学んだ。それは○×思考の私にとって大きな学びとなった。今は住職の云うように「難しいことをやさしく やさしいことを 深く 深いことを おもしろく」と思える。

お寺の花については、いつからか山や境内の四季折々の花を活け始めた。お詣りの方が「今日は気持ち穏やかになった」とか「見るのが楽しみ」と言って下さり、田のあぜ道の花や道端の草ものも主役となった。皆さまに励まされ「花は野にあるように」と心掛けてきた。春は芽吹く喜び、夏は強い生命力、秋は枯れていく美しさ、冬は凜とした姿。花に教えられ人に育てられ、自分も励まし続けることができた。先日、いつも朝から晩まで忙しく働いているお母さんが外入口の花を見て「奥さん、私この花を見るたびに心が 何ていうか休まるよ」と言ってくれた。私にとって最高の嬉

## メモリーズ

これまでの寺報より

しい一言だった。豪華でもない、奇抜さもない、ただ ひたむきに咲く楚々とした野の花が人の心を慰める、時に元気づけるのだと。拙い私でしたが、このお寺、皆さまのお陰で歩むことが出来ました。心よりありがとうございます。

### 春の境内整備作業

3月5日(日)元村4班

### 春の彼岸会

3月21日(火)午後2時

佐渡団参 3月13～15日

### 法灯継承式

4月22日(土)



平成5年 法灯継承式  
行列が本堂前に到着



平成11年 洋明さん学  
寮行脚 団参 伊東川奈  
紺碧の空、海 お祖師さ  
まもこの中に



平成11年 お  
会式 子供の献  
灯 献花を始め  
る 保護者も  
一緒、旧本堂が  
一杯に



平成12年  
信行道場  
団参 洋明  
さん達道  
場生の後  
について  
山本堂朝  
勤へ



平成14年  
本堂建設  
始まる、  
境内樹木  
移植、檀  
家さん方  
がご奉仕



平成17年  
万灯講・  
白龍会発  
足、お会  
式が賑や  
かに。池  
上本門寺  
にも参加



## 自灯明・法灯明

「自らやれることをやってみる」

『冬は必ず春となる』の言葉の如く、刻一刻と境内に色が増してきました。今年も正月・節分・立春と特にその間は多くの方の御祈祷をさせて頂きました。その御祈祷の際に「七難即滅」と唱えます。七難はお経によって示されている難が違いますが、その中の一つに風難というものがあります。字のごとく大自然の台風や大風の難なのですが、最近では風評、嫌なことを SNS で見聞して自らの心が左右されてしまうのも風難だと思ふのです。



さて、二月十五日は涅槃会、お釈迦様が御入滅された日でした。お釈迦様は入滅の際、弟子に「自灯明・法灯明」という教え

## 御志納金「二月・二月」

元村 伊東 一衛殿 尊父五十回忌砌  
川崎市 田中 洋江殿 法灯継承式砌  
小平市 石和 直樹殿 尊母葬儀砌

を説きます。「誰かの言葉・行い・教えに左右される事なく、これまで積み重ねてきた自らの行いを信じなさい。自分の心に従い、正しき教え法華経を心のより所として日々精進しなさい」と教えられたのです。周りの人や出来事によるのではなく、まさに自らを灯とし、法華経を灯としてより所としなさいと。「真っ暗な中で進む道が見えない時、迷いの道に立った時、足元と行き先を照らすライトは、決して他人ではなく自分、そして法華経なのですよ」という教えです。もちろん俺が俺がと自分勝手に判断せず、かといって他人任せにしない。自分の心で考え、判断する力を養い、自分で自分の責任をもってより善く生きていくように精進する。困った時には助言を求め、法華経の教えをより所として生きていく。まさに風難にあった時の「自灯明・法灯明」なのです。

また自灯明にはもう二つの意味があると私は思います。一つ目は、自分で出来ることは自分やる！ということ。私の十八番、家の中での「あれ取って、これ取って」。探し物を自分で探す前から「あれが無い、こ

れが無い」。何事も初めから人任せにせずに自分で動くことも自灯明。二つ目は、本当は良いこととわかっていながら思っているだけで動かない！「あれをやるとこうなるし、これをやるとどうなるのだろうか？」と頭の中で考え過ぎてしまい、起こってもいい不安に悩まされる。思っているだけでではなく、いきなり大きなことをしなくてもいい、小さなことからコツコツとまずは動いてみる、チャレンジしてみるのも自灯明。



今年は法燈継承式があります。四月二十日には、御本尊・仏天、古より情熱をもってお題目を広めて下さった日蓮聖人。時代によつては栄枯盛衰がありながらも今の法住寺を築いて来てくださった歴代人。その時代、その時代を支えて下さった皆さんのご先祖さまにこの法燈継承式を見守って頂けますように。その中で今の法住寺を支えて下さる皆さんと一緒に山門をくぐらせて頂きたいと願っています。ぜひ皆さんの力をお貸しください、宜しくお願い致します。